

Eウッドスタイル 縦貼りタイプ



お客様へ

このたびは、当社製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
正しく安全にご使用いただくために必ず、この取扱説明書をお読みください。

施工業者の方へのお願い

大切な書類です。施工後は必ずお客様にお渡しください。

安全注意事項の表示

本文中の  **禁止**  **注意** の表示箇所は特に重要です。必ず読んでお守りください。
守られない場合、思わぬ事故につながり、ケガをする恐れがあります。

禁止

- ◆本製品は隣地との境界を示す目的です。転倒防止を目的とした防護柵、歩行補助を目的とした手すりとして使用しないでください。
- ◆事故や故障の原因となりますので、むやみな改造、仕様変更はしないでください。
- ◆ケガや事故の原因となりますので、製品を破損・故障・変形したままで、使用しないでください。
- ◆破損や事故の原因となりますので、板塀本体に重いものを乗せたり、寄りかかったり、ぶら下がらないでください。
- ◆変形や火災の原因となりますので、火気を近付けなでください。
- ◆変形や変色の原因となりますので、有機溶剤や石油類を付着しないようにしてください。

☆本製品は新しい発想と、製造技術開発により生み出された製品です。素材は数多くの特長を持っており、一般住宅でも広く使われております。

- このたびは、当社製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、あなたやほかの人々の危害や損害を未然に防止するものです。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味



警告

- 取扱を誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。



注意

- 取扱を誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

<施工の前に>



警告

- 本製品は隣地との境界を目的に設置するものです。転倒防止を目的とした防護柵、歩行補助を目的とした手すり等として使用しないでください。
- 本製品の施工には別売『バー材(板押え材)』が必要です。使用しない場合、本体の伸縮により反り・割れが生じる場合があります。



注意

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

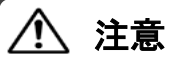
<施工上のご注意>



注意

- 本製品施工前にできる限り太陽光に当てないでください。板材が伸縮するおそれがあります。
- 強い衝撃を与えないでください。変形やキズ付きの原因となります。
- 本製品の化学的性質は弱酸性・アルカリ・塩類等には優れた抵抗性を持っています。有機溶剤や石油類に侵される性質を持っており、触れると変色する原因となります。
- 火気があたり続けると軟化や融解をします。火気は近付けないでください。
- 柱のピッチは柱芯々1000mm以下で施工してください。それ以上離れると耐風圧強度が、大幅に低下します。
- 本製品の取付については、本体に同梱されている取付説明書をご確認ください。
- 本製品の施工につきましては、バー材をご使用ください。
- 柱は施工現場の状況(風圧など)を考慮し、指定以上の角・肉厚で十分強度を確保した柱をお使いください。
- 製品の特性上、本製品には色差・色ムラがあります。

■梱包明細表



注意

- 開梱時に部品の種類と数量を確認してください。
- 商品に異常がないことを確認してください。

1 板

名 称	略 図	数 量
L1995×H120×D10		1枚
取付・取扱説明書		1

2 ドリルネジ(別売)

名 称	略 図	数 量
板固定用ネジ φ4×30皿ドリルネジ		30本入
バー材取付用ネジ φ4×35ドリルネジ		30本入

3 柱(別売)

※50×30 t1.6の柱は、横棧が納まらないため、縦貼りタイプには対応していません。

名 称	アルミ柱			数 量
	角寸法(mm)	L寸法(mm)	許容高さ(mm)	
柱本体 (別売) 柱キャップ付	35 x35 t2.0	1,000	800	1本
		1,200	1,000	
		1,500	1,200	
	50 x 30 t1.6			
	50 x 50 t1.5	2,000	1,600	
	60 x 60 t1.5	2,300	1,800	
	60 x 60 t2.0	2,500	2,200	

4 縦貼りタイプ用横棧セット(別売)

名 称・略図・数量	略 図	数 量
横棧x1 L=1000 もしくは、 指定柱内々寸法 取付金具x2 ／横棧1本	<p>φ4×25ドリルネジx6本 ／横棧1本</p> <p>横棧取付治具 35x35x2t 1個／1現場</p> <p>※取付穴は片側のみ 工場加工、 反対側は現場加工</p>	

5 バー材(押え板)セット(別売)

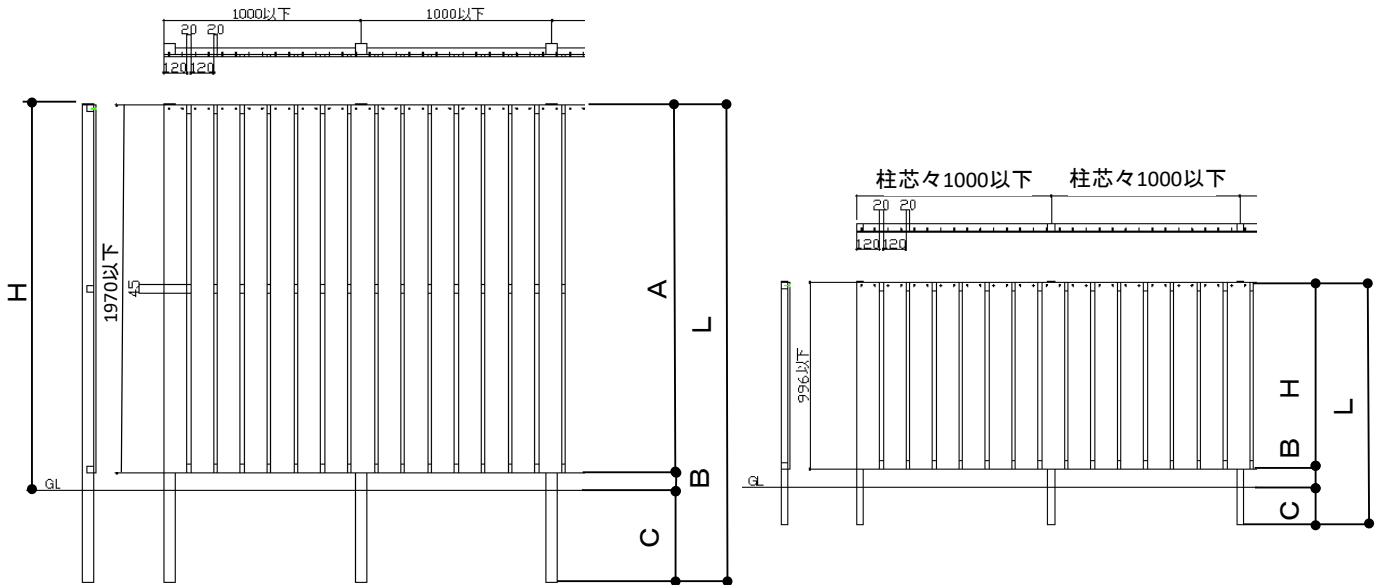
名 称	略 図	数 量
バー材 W45×L2000 現場でカット		1本 すきま材 付
すきま材	すきま材 両面テープ付 指定寸法	

■基本寸法



注意

- 下図は板・ネジ配置を示したものです。最終仕上がり状態ではありません。
- H=996以下の場合横棧は縦方向2本となり、板材L1995から2枚取りが可能です。

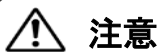


柱サイズ

B※: 縦方向の板の伸縮を考慮し、30mm以上とします。

	角寸法 (mm)	L	H	C	柱間 横棧本数	A	B※
		長さ(mm)	許容最大 H寸法(mm)	埋め込み (mm以上)		許容最大 板貼寸法(mm)	最大下あき 寸法(mm)
アルミ形材柱 JISA6063対応品	35 × 35 t2.0	1,000	800	200	2	770	30
		1,200	1,000	200	2	970	30
		1,500	1,200	300	3	1,170	30
	50 × 30 t1.6	対応不可 (柱の見込み寸法が横棧よりも小さいため)					
	50 × 50 t1.5	2,000	1,600	400	3	1,570	30
	60 × 60 t1.5	2,300	1,800	500	3	1,770	30
60 × 60 t2.0	2,500	2,000	500	3	1,970	30	

※ 施工場所を考慮して十分強度の取れる柱を選択してください。 ※ 元板の長さは1995mmです。



注意

- 板幅とすきま材の合計寸法と柱ピッチが、必ずずれます。
 方法 1 : 現場にて幅切り詰めをします。
 方法 2 : 柱ピッチ、もしくは板間の隙間で調整します。



■基礎工事について



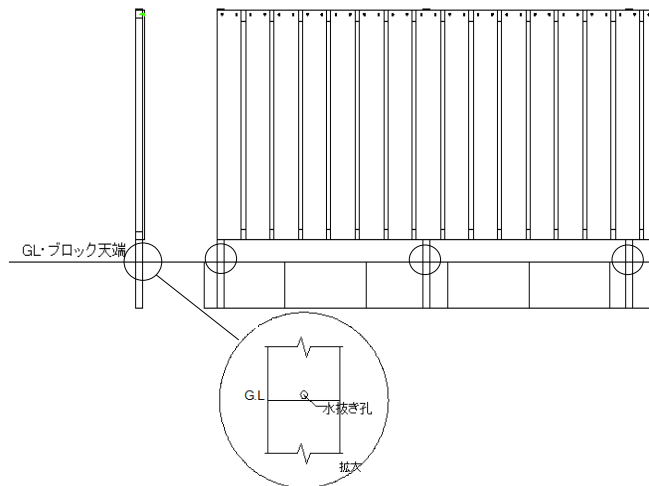
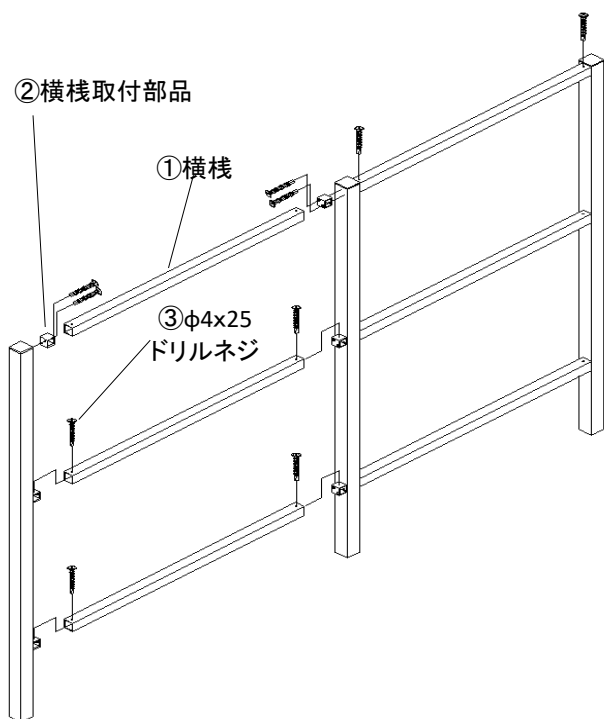
注意

- コンクリート(またはモルタル)には、塩分を含む砂(海砂)および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用 混和剤(凍結防止剤・凝固促進剤・急結剤)などは使用しないでください。アルミなどの金属が腐食する原因になります。非塩素系または非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- 指定埋込寸法は必ず守って施工してください。

■施工手順

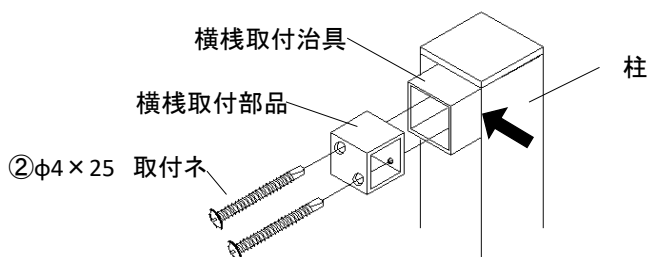
1 横棧・柱の施工

- ①横棧は、L=1000もしくは指定柱内々寸法で出荷されます。
※現場確認後所定の長さで切断してください。
※片側の取付穴φ4を現場加工してください。
- ②横棧取付部品を柱にφ4x25ドリルネジで取付けます。
- ③横棧を横棧取付部品にφ4x25ドリルネジで取付けます。



注意

- 必ず柱に水抜き穴をあけて、柱用の穴に柱を立ててから、モルタルを入れてください。モルタルを入れてから柱を立てると、柱内部に水がたまり、凍結破損の原因になることがあります。



※横棧取付治具を、柱の板を貼る面側に合わせます(黒矢印)。位置がずれないようにして、φ4x25ドリルネジで横棧取付部品を取付けます。

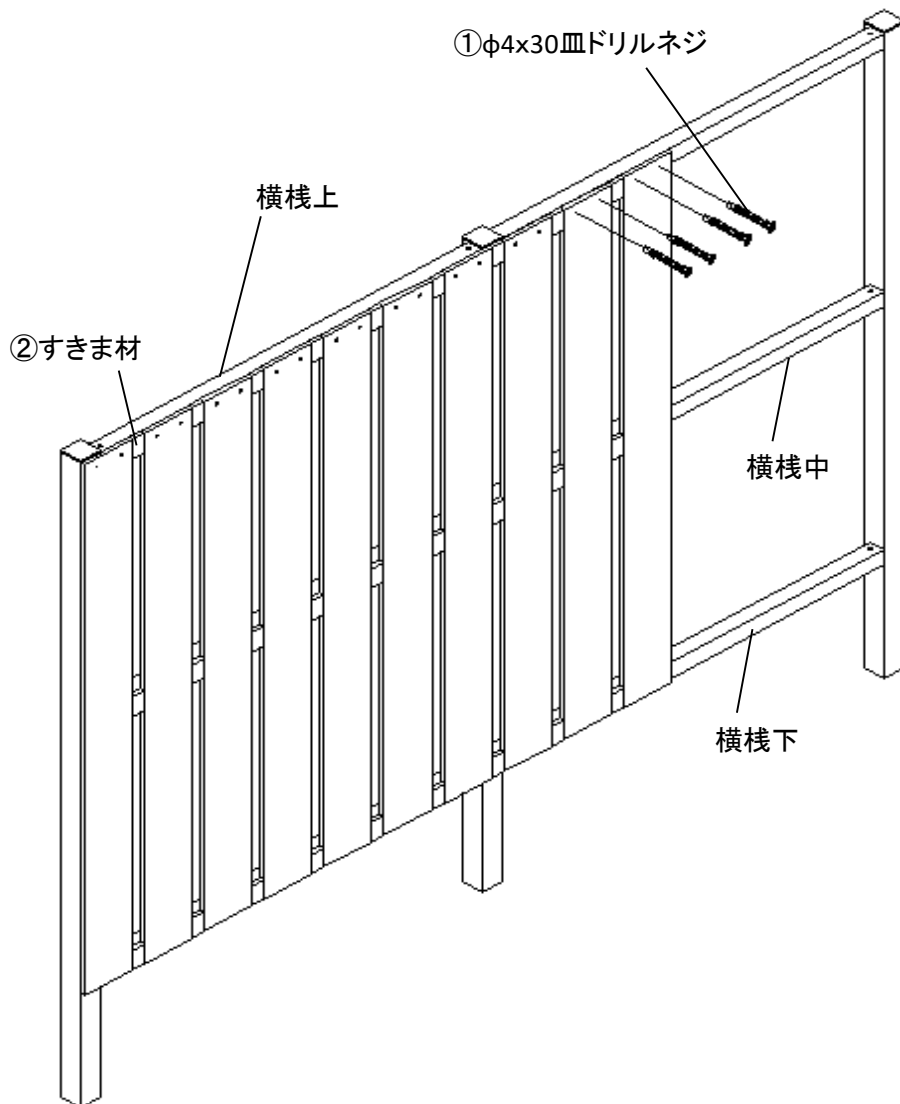


注意

- 基礎コンクリート打設前に横棧を取付け、柱が完全に固まってから本体を取付けてください。
- 柱を図の様に施工してください。※柱のピッチは柱芯々1000mm以下で施工してください。
- 柱は必ず垂直に施工してください。
- 柱の埋め込みは十分強度が保てるように施工してください。強い風圧を受け飛散・倒壊事故の原因になります。
- 本体に同梱されている取付説明書をご確認ください。

3 板材の取付 ※縦貼りタイプは上端の横棧のみ固定し、板の伸縮は下方向に逃がす方式で取付けます。

- ①左から1枚目の板を柱側面に合わせ、上端をφ4x30皿ドリルネジで横棧上に取り付けます。
 - ②すきま材を横棧上、中、下に貼り付けます。
 - ③①、②を繰り返します。
- ※板は、横棧中、下にはネジ固定しないでください。



4 板幅・柱ピッチの調整 (図の→ : 施工前の配慮が必要です。)

- 方法1を選択した場合は、幅を切り詰めた板を貼りつけてください。

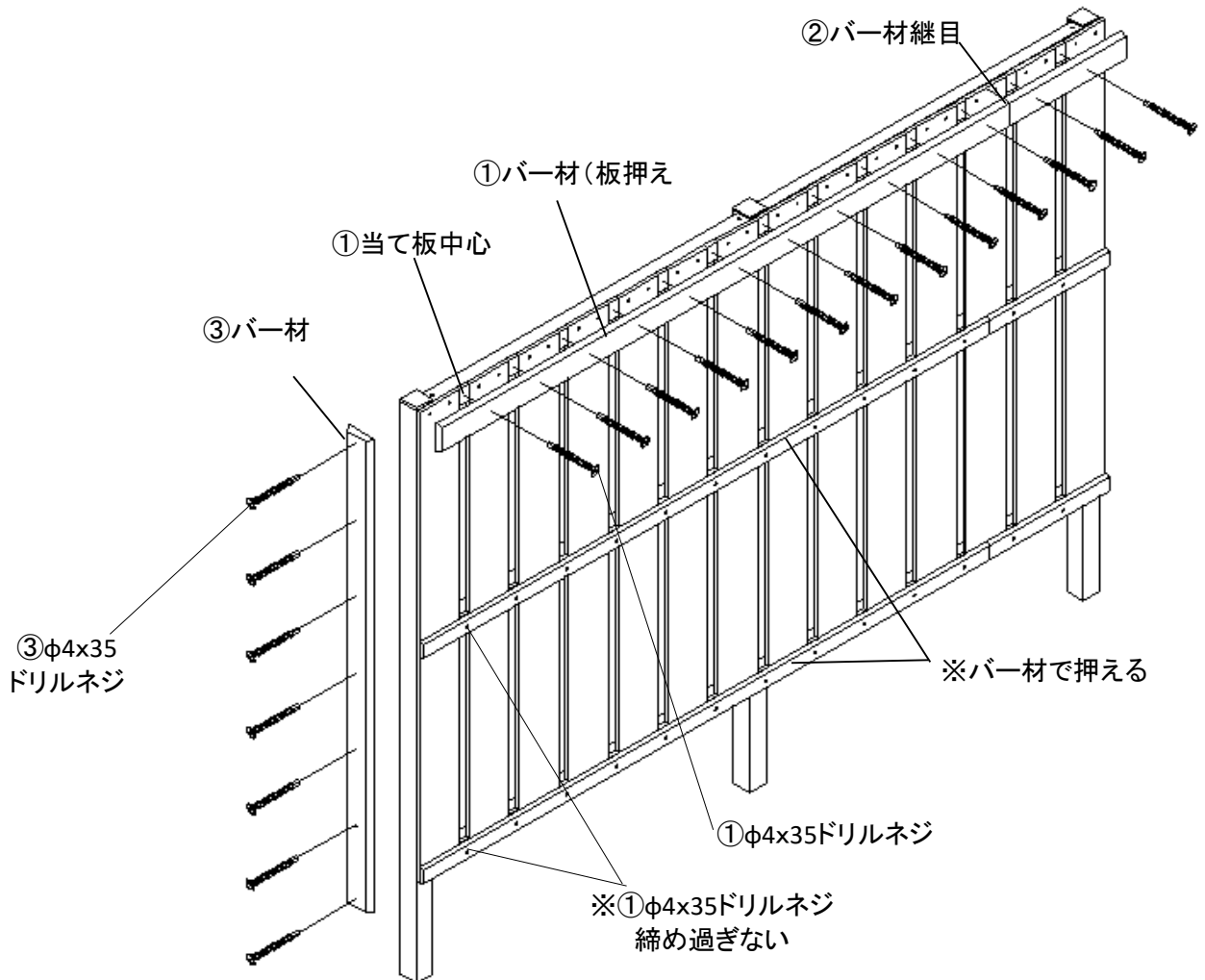
方法 1 : 現場にて幅切り詰めをします。

方法 2 : 柱ピッチ、もしくは板間の隙間で調整します。



4 バー材(押え板)の取付

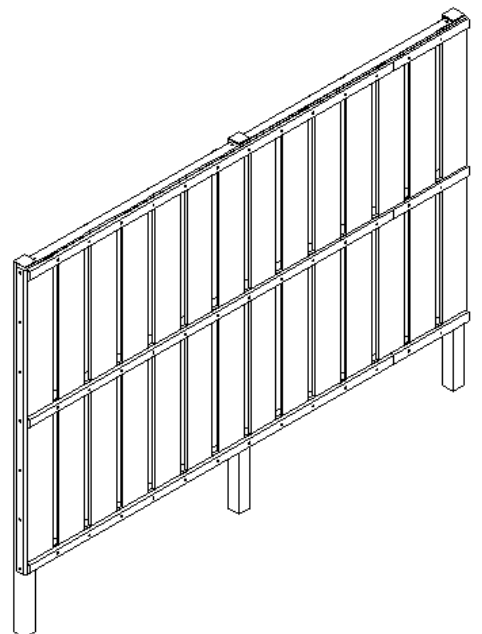
- ①すきま材中心を目安に、バー材(板押え板)をφ4x35ドリルネジで取付けます。
- ②バー材(板押え板)の継目は2000おきに必ず発生します。
- ③端部の板が動かないように、バー材(板押え板)をφ4x35ドリルネジ200mmピッチで取付けます。



5 完成

⚠ 注意

- 図中※印部分、横棧中段、下段のバー材(板押え板)のφ4x35ドリルネジは締めすぎないでください。板材の熱収縮を吸収できなくなり、不具合が発生する場合があります。



EXIS 株式会社 **エクシス**